

スズキ麺工

手延べ向けの提案に力

岡山県浅口市に本社を置くめんメーカー。乾めんだけでなく生めん、冷凍めんまで広く対応し、最新鋭のロボット技術を生かしためん機やプラントを製造する。国内にとどまらず、海外10か国以上に製品を提供。ISO22000、FSSC22000の認証を受けた食品工場を併設し自社やOEMのめん類の生産も手掛ける。

前11月期は今期予定する大型案件への準備を優先するため減収を予想していたが、大手飲食チェーン向けの機械が増えたことなどで売上・利益とも計画を上回った。今期の業績はその大型プラントの完成時期にもよるが、前年並みを目指す。

乾めん業界について鈴木保夫社長は「夏場に備え各社とも早めに準備しているため、例年よりも繁忙期が早まっている」と説明する。その中で手延べめんに關しては「今は作れば作るだけ売れる」とした上で、「1時間当たり小麦粉1袋分生産していたのを、1・

5袋分できるような道具を提案する」考え。人手不足が深刻化する中、生産効率を高める提案に注力する。

食品事業も前期は計画を上回った。今期も生・半生めんの増加や中華めん、そばの拡大によりプラスを計画。最新設備の導入による働きやすい環境づくりも進める。

今期は「日進月歩」を会社の指針に定めた。鈴木社長は「常に新しいことに取り組んでチャレンジする姿勢を持ちつつ、日々修正を図り着実に前に進んでいきたいという思いを込めた」と話す。



人気製品の「めん屋の楽麺くんジュニア2」

西村製作 要望に応じた包装機提供

めん機、省人化設備、包装機など産業機器を手掛ける西村製作では、高級感を追求したシュリンク包装機から、小ロット・多品種、自動化・大量製造に対応した包装機など豊富にそろえ、現場のさまざまな要望に応える。

見た目の美しさを追求した「自動製袋式角なしシュリンク包装機」は、シュリンク包装特有の尖った角がなく、継ぎ目がきれいに見え、シワやムラのない包装が特徴。外部からの汚れや破損の防止、未開封証明としてはもちろん、見た目の高級感を高める。箱のサイズが変わっても、パネルからワンタッチ操作で簡単に切り替えが可能。作業者の安全に配慮して、包装機全体をカバーで覆った。扉にはインターロックがついている。

「自動給袋式包装機」は、面倒なスタンディングパウチ挿入に特化した。あらかじめ形成された袋（プレメイドパウチ）を自動で供給し、袋を開封して、製品を充填、密封までを一貫して行う。冷凍食品、スナック菓子、粉末・液体調味料などさまざまな充填物に対応

し、小ロット多品種製造に優れている。各種装置と接続できるため、生産ラインへの組み込みが可能だ。

「自動製袋式包装機」は、ロールフィルムからさまざまな形状の袋を形成し、商品を充填して密封する。袋の供給作業が不要で、印刷フィルムの使用により、パッケージの自由度も高く、低コスト生産ができる。生産効率が高く、大量生産に最適。最新機はIoT対応で生産管理やトレーサビリティにも組み込みやすくなっている。



自動製袋式角なしシュリンク包装機



本機のシュリンク包装